2003年7月、配本完結!

滝尾英二　編・解説
（広島青丘文庫主宰・近代史研究者）

【編集復刻版】

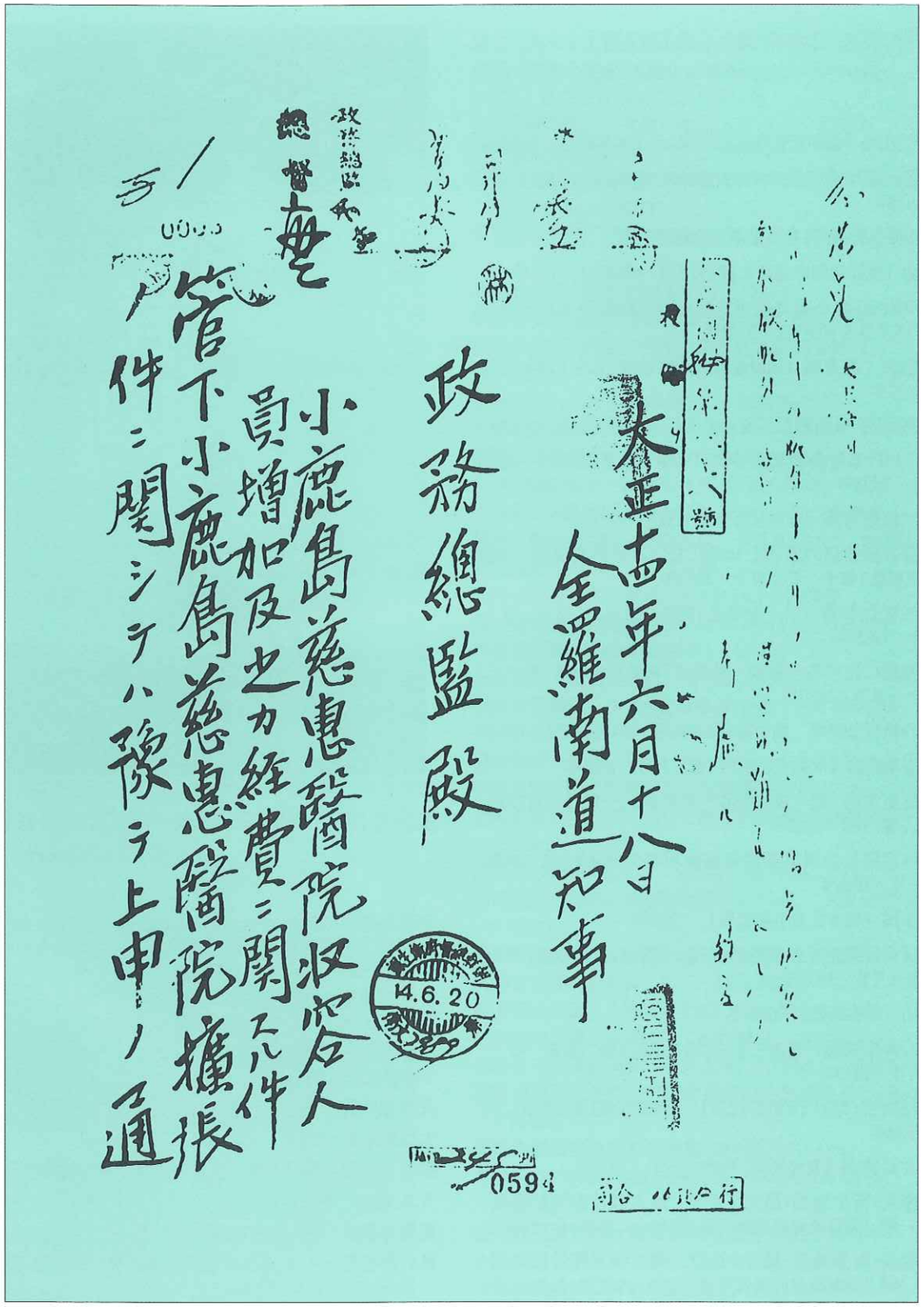
# 植民地下朝鮮におけるハンセン病資料集成

小鹿島慈恵医院での
謝恩更生運動で労働奉仕のため
道路工事に駆り出された患者たち（1932年）

全8巻

2001年5月のハンセン病訴訟原告の勝訴判決（熊本地裁）以来、
日本政府のハンセン病対策が、当時の国際的な医学知見と逆行する強制隔離や断種等を押し
進めた結果、多くの患者の人権侵害を引き起こしてきた事実が明らかになりつつある。
しかし被害を受けたのは、日本国内にいた患者だけではない。
1910年韓国併合後の朝鮮でのハンセン病対策では、植民地政策の一環として、
日本国内と同様、強制隔離を採用し、新たに全羅南道南端の島・小鹿島（ソロクト）に療養所を
建設して、朝鮮のハンセン病患者を強制収容してきた事実がある。そこでは
日本国内以上に過酷な強制労働と懲罰としての断種が強行され、ついには
日本人医務官僚で療養所園長の周防正季が患者によって刺殺される事態にまで至る。
現在も小鹿島病院に日本統治下からの元患者が生活しているが、退所者や元在宅患者も含め、
日本政府からの謝罪はなく、熊本判決後に成立したハンセン病補償法の対象にもなっていない。
本資料集成は、これまで近現代ハンセン病の歴史の上でも閑却されてきた植民地時代の
朝鮮のハンセン病について、朝鮮総督府発行の刊行物や小鹿島更生園の年報、雑誌・
新聞などの諸資料によって、その問題のありかを浮かび上がらせるものである。
植民地においてよりストレートに遂行された日本のハンセン病政策の
本質を明らかにする基本資料として刊行する。

不二出版



大正十年六月十八日
全羅南道知事

政務總監殿

小鹿島慈惠醫院收容人員增加及之カ經費ニ關スル件
管下小鹿島慈惠醫院擴張件ニ關シテハ豫テ上申ノ通

14.6.20

059

内容見本／『小鹿島慈恵医院関係綴』（第8巻所収）より

トヲ得ズ

第二十二條　寄附行爲ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ會長別ニ之ヲ定ム

## 第三章　趣　意　書

朝鮮に於ける癩患者は最近の調査に依れば其の數八千餘人に上れるも猶隱れたる患者を加ふれば實に一萬を超過すべし。

然るに現在收容せらるゝ者は官立療養所たる小鹿島慈惠醫院に七百七十人其の他の三私立療養所に千七百五十人合計僅かに二千五百人を出でず、其の他の多數の患者は依然として社會に容れられず或は自宅に籠居し、或は各地を放浪し、殆んど醫療を受くること能はず空しく病勢の昂進に委し懊惱の裡に悲慘極りなき生を終らんとするの實狀にあるは寔に同情に堪へざる所なるのみならず、之が爲隨所に病毒を傳播し新しき犧牲者を續出せしむる因を爲しつゝあり、之患者の增加を來す所以にして國民保健上洵に憂慮すべき重大問題なり。故に之が救療機關の完成を圖り以て現に罹病せる患者の救療慰安の途を講ずると共に、本病の蔓延を防止し之が根絶を期するは最も緊要且焦眉の急務なりと信ず。

歐洲諸國に於ては嘗ては相當多數の患者存在したるも、隔離其の他本病根絶の途を講じたる爲今や殆んど其の跡を絶つに至り、又內地に於ては夙に本病豫防に關する法令を制定すると共に、道府縣立療養所を設け



内容見本／資料15－朝鮮癩予防協会要覧（第3巻所収）より

推せんします

## ナビョン（ハンセン病）患者への隔離政策を明らかにするために

海野福寿〈明治大学名誉教授〉

ソウルの地下鉄で、サングラスをかけた初老の男性が喜捨を求めて車内をよろめく足取りであるいていた。心やさしい韓国人たちにならって、私も小銭を差し出したが、彼は日帝下の療養所にいたのではないか、という考えが頭をかすめた。それは15年も前のことだが忘れていない。しかしその時、私が韓国のハンセン病史や韓国政府の患者隔離政策撤廃が日本よりはるかに早い1963年であったことを知っていたのではない。

韓国を植民地とした日本が、当時はライ病（朝鮮語ではナビョン）といったハンセン病患者の強制隔離政策に着手したのは併合後間もない時期である。1916年、朝鮮総督府は朝鮮半島南端の離島・小鹿島に官立の慈恵医院を設置した。当初は百人ほどの収容規模だったが漸増し、1934年に小鹿島更生園と改称されるころには六千人規模の大施設になる。このほか朝鮮には大邱・麗水・釜山に私立の療養所があったという。

小鹿島更生園は、医療機関というよりも収容所といった方がよい。監禁所・刑務所まで存在した。そこで人格を無視された患者・元患者に対して医療や更生という名でどんな処置がとられたか。川田悦子衆議院議員は「薬物などで患者を虐待したとも聞いています」（『朝日新聞』2001年6月19日）と語っている。なかったとは言えまい。

私たちは知らない。知ろうとしなかった怠慢と不明を恥じるが、このたび専門研究者である滝尾英二氏が長年にわたって収集された膨大な資料を提供してくれるという。おののく気持ちも否めないが、植民地下で幾重もの差別の最底辺で生きた人々の呻きに耳を傾けたい、と思っている。

（うんの・ふくじゅ）

## 魂がふるえるような資料群

秋定嘉和〈世界人権問題研究センター〉

滝尾英二さんが、これまでの労苦の結晶のまとめにとりかかられた。定年後の病気をおしての努力の成果である。10年ほど前かと思うが、おめにかかったとき、東京・大阪を中心とした皮革産業の原皮依存が朝鮮半島であることを力説された。そして、その話は被差別部落の皮革産業史の植民地責任を問うものであった。当時、日本帝国主義との関連を強調していた私にとって同感できるものであった。

ところで、今回の『資料集成』も植民地下の朝鮮と日本の関係に焦点をあてられている。ハンセン病者に対する「隔離・断種・棄民」は日本と同時進行であった。植民地下であっただけにそれはよりすさまじい政策実施である。

滝尾さんは、このような魂がふるえるような資料の採集作業に従事され、何度も渡韓されていた。数年前、東京や韓国へいかれ、集められた諸資料の一端とコピーの量を手幅で示され、その作業の内容など話して下さった。

いま、その労働の成果を机上にどっしりと置いて下さるというのである。これらの内容は、きっときびしいものであり未知の領域に私たちをひきだすものであろう。

日本では「判決」と政府の「判断」で問題を一くぎりしたかとみえるとき、これまで目をつぶってきたいま一つの植民地責任が問われはじめたのである。

（あきさだ・よしかず）

【収録内容一覧 ＊一部抜粋】

### 第1巻：強制隔離・患者労働・断種政策資料（Ⅰ）

〈458ページ+折込6点　定価=本体16,000円+税〉

1－小鹿島慈恵医院概況　昭和四年度 朝鮮総督府／1930年
2－小鹿島慈恵医院年報　昭和六年 朝鮮総督府／1932年
3－昭和九年年報　小鹿島更生園／1935年
4－昭和十年年報　小鹿島更生園／1936年
5－昭和十一年年報　小鹿島更生園／1937年
6－昭和十二年年報　小鹿島更生園／1938年

### 第2巻：強制隔離・患者労働・断種政策資料（Ⅱ）

〈396ページ+折込3点　定価=本体14,000円+税〉

1－昭和十三年年報　小鹿島更生園／1939年
2－昭和十四年年報　小鹿島更生園／1940年
3－昭和十五年年報　小鹿島更生園／1941年
4－昭和十六年年報　小鹿島更生園／1942年

### 第3巻：強制隔離・患者労働・断種政策資料（Ⅲ）

〈350ページ　定価=本体12,000円+税〉

1－癩救療施設ほか『施政二十五年史』より／1935年
2－小鹿島慈恵医院ほか『施政三十年史』より／1940年
3－衛生講演　山根正次『朝鮮総督府月報』／1913年
4－小鹿島の別天地　芳賀栄次郎『毎日申報』／1917年
5－学校伝染病予防及消毒方法『朝鮮総督府官報』／1919年
6－朝鮮ニ於ケル癩患者ノ状況　小串政治『朝鮮衛生行政法要覧』／1921年
7－癩予防ニ関シ左記要項ノ命令ヲ制定スルノ可否『道警察部長会議諮問事項答申書』／1923年
8－癩患者収容ニ関スル件ほか『京畿道警察法令聚』／1924年
9－癩患者救済ノ施設ヲ講セラレタキ件（慶北）『道知事提出意見』／1926年
10－癩予防ニ関スル制令ヲ発布シ癩患者救療所ヲ適当ノ地ニ増設セラレタキ件（慶北）『道知事提出意見』／1927年
11－癩の予防と撲滅とを期す　志賀潔『朝鮮』／1931年
12－地方病『朝鮮警察概要　昭和七年』／1932年
13－朝鮮癩予防協会の設立『朝鮮』／1933年
14－衛生施設 池田清「朝鮮の警察と衛生」『朝鮮総覧』／1933年
15－朝鮮癩予防協会要覧　朝鮮癩予防協会／1933年
16－癩予防御下賜金と寄附状況『朝鮮』／1933年
17－道知事会議に於ける総督訓示要旨 朝鮮総督府／1933年
18－朝鮮癩予防協会　第一回評議員会開催『朝鮮公論』／1933年
19－癩根絶計画ニ依ル患者収容年次表／1934年
20－朝鮮癩予防協会　朝鮮総督府警務部衛生課／1934年
21－皇太后陛下の御仁慈と癩予防事業　関屋貞三郎／1934年
22－朝鮮癩予防令／朝鮮癩予防令施行規則『朝鮮総督府官報』／1935年
23－衛生施設ノ概要並将来ノ方針／癩患者ノ見込数及之カ収容処遇ノ現況、将来ノ計画　『第六十九回帝国議会説明資料』警務局／1935年
24－朝鮮癩予防協会事業概要　朝鮮癩予防協会／1935年
25－癩患者収容ニ関スル件／癩患者収容ノ件　『道警察部長会議希望事項』朝鮮軍司令部／1937年
26－衛生施設ノ概要並将来ノ方針／他　『第七十三回帝国議会説明資料』／1937年
27－癩の予防救療　伊藤泰吉『朝鮮警察の一斑』／1938年

### 小鹿島「癩」療養所関連年表

（一九一六～四五年）

一九一六（大正5）年二月
朝鮮総督府、ハンセン病専門の療養所として全羅南道に道立の小鹿島慈恵医院を開設
一九一二年
小鹿島慈恵医院の第二代院長に花井善吉就任
一九一六年
医院拡張・土地取り上げへの島民の反対運動
一九三二年
朝鮮癩予防協会設立
一九三三年
小鹿島の九〇〇余人の島民、全員島外に移転。長島愛生園長光田健輔ら一行、朝鮮各地の「癩」療養所を視察
京畿道衛生課長周防正季、第四代院長となる
一九三四（昭和9）年
国立療養所小鹿島更生園と改称
一九三五年
制令により「朝鮮癩予防令」公布。府令により癩療養所長に「懲戒・検束」の権限を認める
小鹿島神社落成
小鹿島内に光州刑務所小鹿島支所を設置
一九四〇年
小鹿島に周防正季園長の銅像除幕式
第二四回日本癩学会（会長周防正季）が小鹿島更生園とソウルで開催
一九四一年
園長の銅像建立を提案・実行した患者代表朴順周が、患者李吉龍に殺される（李は刑務所内で自殺）
一九四二年
「月例報恩感謝行事」が周防園長の銅像の前の広場で行われた際、周防正季が患者李春相によって刺殺（翌年李は大邱刑務所で処刑）
一九四五年
第五代園長西亀三圭が職員に「敗戦」を訓示。朝鮮人職員の手で患者地帯の小鹿島神社焼討。八月二二日、患者自治を求めた入所者に対し、武装した朝鮮人職員等が発砲、患者八四人が死亡。日本の植民地時代最後の犠牲者となる。

## 第4巻：新聞記事にみるハンセン病（Ⅰ）

〈274ページ　定価=本体9,500円+税〉

1917～1932年

## 第5巻：新聞記事にみるハンセン病（Ⅱ）

〈356ページ　定価=本体12,000円+税〉

1933～1942年

／断種法の実施と民族優生思想（1938～1940年）

※第4巻・第5巻では朝鮮で発行された新聞（『東亜日報』『朝鮮日報』など）から関連記事を収載した。

## 第6巻：「癩患者」統制と周防正季園長殺害事件

〈420ページ　定価=本体15,000円+税〉

〈第6巻目次・抄〉

基督教会『釜山要覧』釜山商業会議所／1912年
癩病院を訪ふ『朝鮮』／1921年
朝鮮に於ける救癩問題　村田正太『日本及日本人』／1921年
癩病患者のために慰問伝道をなしつゝある小出氏の小鹿島訪問記『警務彙報』／1927年
衛生に関する風習並迷信療法『朝鮮』／1929年
朝鮮の警察と衛生　浅利三朗『朝鮮』／1929年
サラン　林文雄『日本MTL』／1931年
朝鮮の癩問題　矢澤俊一郎『日本MTL』／1932年
朝鮮癩救療施設『日本MTL』／1932年
癩遺伝説は全然学理上の根拠を持つて居ない　村田正太『日本MTL』／1932年
癩病患者療養　朝鮮総督府学務局社会課『朝鮮の社会事業』／1933年
朝鮮癩救護の進展『日本MTL』／1933年
朝鮮癩予防協会事業計画案『日本MTL』／1933年
朝鮮の癩者は同胞の手で　塩沼英之助『日本MTL』／1933年
小鹿島より　MY生『日本MTL』／1933年
光田園長朝鮮旅行日程／1933年
朝鮮の癩見聞記　宮川量／1933年
朝鮮ノ癩療養所—昭和七年度、昭和八年度／1933年
完成近き小鹿島更生園を観る『日本MTL』／1935年
朝鮮に於ける癩病の史的考察　李承漢『愛生』／1935年
小鹿島更生園の現況　三井輝一／1935年
朝鮮小鹿島更生園落成『日本MTL』／1935年
朝鮮癩療養所の印象　田尻敢『日本MTL』／1935年
小鹿島見聞　高野六郎『愛生』／1936年
小鹿島更生園訪問記録　宮川量／1936年
癩患者動態調　全羅南道警察部『昭和十三年警務要覧』／1938年
癩療養所小鹿島　クリスチヤン・フツパー『文献報国』／1940年
小鹿島更生園長周防園長の寿像建つ!『日本MTL』／1940年
朝鮮小鹿島更生園を通して観たる朝鮮の救癩事業　西川義方／1940年
厚生局の誕生に際して　石田千太郎『朝鮮』／1942年
内地に於て癩の絶対隔離の範を示す可し　光田健輔『愛生』／1942年
朝鮮の癩について　北村精一『文化朝鮮』／1942年
周防正季園長を語る　梶　一『文化朝鮮』／1942年
更生園診療記　小鹿島更生園『文化朝鮮』／1942年
更生園の生態　中川浩三『文化朝鮮』／1942年
小鹿島更生園訪問記　相馬美知『文化朝鮮』／1942年
周防更生園長を悼んで特殊療養所の急設を望む『楓の蔭』／1942年
周防小鹿島更生園長の殉職『楓の蔭』／1942年
李春相口星山春相死刑判決文　大邱地方覆審法院／1942年
星山春相死刑執行彙報『朝鮮総督府官報』／1943年
小鹿島更生園近況　西亀三圭『愛生』／1943年
大東亜癩絶滅に関する意見書『レプラ』／1943年

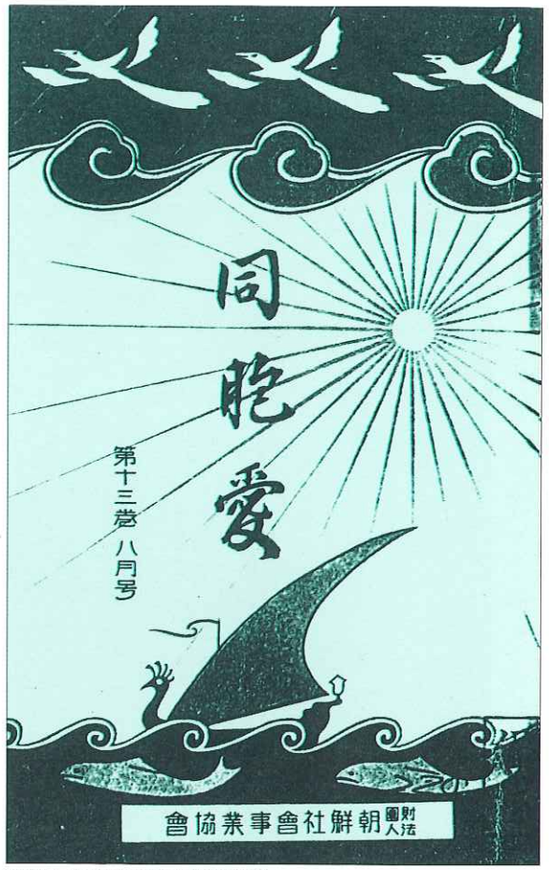
周防正季園長を語る
梶一

梶一「周防正季園長を語る」『文化朝鮮』1942年

## 第7巻：朝鮮社会事業と「恩賜救癩」

〈354ページ　定価=本体12,000円+税〉

道慈恵医院『朝鮮総督府施政年報（大正五年度）』／1918年
癩患者救療事業『朝鮮総督府施政年報（大正六年度）』／1919年
癩　杵淵義房『本邦社会事業』／1922年
地方病『朝鮮総督府施政年報（大正十一年度）』／1924年
光州済衆病院・小鹿島慈恵医院・大邱癩病院・癩病隔離院『朝鮮社会事業要覧』／1924年
医療施設／地方病『朝鮮総督府施政年報（大正十四年度）』／1927年
大邱癩病院・東山病院『慶尚北道社会事業要覧』／1930年
朝鮮に於ける社会事業団体調『朝鮮社会事業』第十一巻二月号／1933年
例言／救療事業『朝鮮社会事業要覧』／1933年
京城府方面委員の昭和七年中に於ける事業及実績『朝鮮社会事業』第十一巻六月号／1933年
朝鮮の社会事業（二）　兪萬兼『朝鮮社会事業』第十一巻九月号／1933年
社会施設に対する一考察　朴駿栄『朝鮮社会事業』第十一巻十一月号／1933年
朝鮮の結核と癩病　閔山海『朝鮮医報』第4巻第3号／1934年
社会事業日誌『同胞愛』第十三巻十月号／1935年
小鹿島更生園（第一期）拡張工事落成式予定日程及び落成式案内図／1935年
第一回朝鮮社会事業週間実施要項案『同胞愛』第十四巻一月号／1936年
救療事業『朝鮮社会事業要覧』／1936年
我が皇室と朝鮮社会事業の発達　日野春吉『同胞愛』第十四巻九月号／1936年
癩予防『衛生概要』／1937年
当面の衛生問題　西亀三圭『鮮満之衛生』第二巻第一号一月号／1938年
癩病座談会（昭和10年4月23日）『朝鮮医報』第6巻第1-2号／1938年
癩患者動態調『警務要覧』昭和十三年／1938年
医療施設・衛生施設・最近ノ施設／地方病及慢性伝染病——癩『朝鮮総督府施政年報（昭和十二年度）』／1939年
医療施設・衛生施設・最近ノ施設／地方病及慢性伝染病——癩『朝鮮総督府施政年報（昭和十六年度）』／1943年



朝鮮社会事業協会機関誌『同胞愛』

## 第8巻：朝鮮総督府の「癩」政策と患者殺戮

〈319ページ　定価=本体11,000円+税〉

小鹿島慈恵医院収容人員増加及之カ経費ニ関スル件『小鹿島慈恵医院関係綴（自大正十四年至昭和九年）』／1925年
小鹿島慈恵医院敷地買収ニ関スル件『小鹿島慈恵医院関係綴（自大正十四年至昭和九年）』／1926年
小鹿島慈恵医院拡張問題ニ対スル騒擾事件ノ件『小鹿島慈恵医院関係綴（自大正十四年至昭和九年）』／1926年
大邱癩病院一覧表　昭和八年三月／1933年
大邱癩病院一覧表　昭和九年三月／1934年
癩療養施設ニ関スル件〈管警第八六〇号〉／1934年
天よ、地よ　キム・ビョンニヨン
荒野の旅人　キム・チャンウオン
私の終戦記——小鹿島療養所　藤本勇『菊池野』通巻216号vol.22　No.2／1972年

# 植民地下 朝鮮におけるハンセン病資料集成

全8巻・揃本体価格101,500円＋税

**第1巻　強制隔離・患者労働・断種政策資料（Ⅰ）**
定価　本体16,000円＋税　ISBN4-8350-1436-7

**第2巻　強制隔離・患者労働・断種政策資料（Ⅱ）**
定価　本体14,000円＋税　ISBN4-8350-1437-5

**第3巻　強制隔離・患者労働・断種政策資料（Ⅲ）**
定価　本体12,000円＋税　ISBN4-8350-1438-3

**第4巻　新聞記事にみるハンセン病（Ⅰ）**
定価　本体9,500円＋税　ISBN4-8350-1439-1

**第5巻　新聞記事にみるハンセン病（Ⅱ）**
定価　本体12,000円＋税　ISBN4-8350-1440-5

**第6巻　「癩患者」統制と周防正季園長殺害事件**
定価　本体15,000円＋税　ISBN4-8350-1441-3

**第7巻　朝鮮社会事業と「恩賜救癩」**
定価　本体12,000円＋税　ISBN4-8350-1442-1

**第8巻　朝鮮総督府の「癩」政策と患者殺戮**
定価　本体11,000円＋税　ISBN4-8350-1443-X

各巻に「解説」を収録（第5巻を除く）

2003／9
表示価格はすべて税別です

不二出版

〒113-0023　東京都文京区向丘1-2-12　電話03（3812）4433　Fax03（3812）4464　振替00160-2-94084　URL:http://www.fujishuppan.co.jp/